

## 第4回与謝野町公共施設等マネジメント推進委員会 会議報告書

日時 令和4年11月28日(月) 午後7時～午後9時10分

場所 野田川わーくぱる 第2会議室

出席(敬称略)

川勝 健志	青山 公三	杉岡 秀紀	青木 一博
岸部 敬	山崎 哲典	佐々木 和代	西川 明宏
安岡 孝子			

欠席(敬称略)

足立 経彦
-------

オブザーバー

子育て応援課 浪江参事	学校教育課 吉田参事	教育委員会 柴田次長 兼学校教育課長	総務課 長島課長
子育て応援課 下川課長	社会教育課 植田課長		

事務局

企画財政課 小池課長	同 小谷主幹	同 廣野係長	同 渡邊主任
同 廣谷主任			

傍聴者 9名

会議の日程

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 前回会議の振り返り
4. 役場庁舎について
5. 保育所・こども園について
6. 閉会挨拶

会議の経過

(1. 開会)

- 事務局(企画財政課長): 皆さんこんばんは。定刻となりましたので、ただいまから第4回目となります与謝野町公共施設等マネジメント推進委員会を始めさせていただきます。委員の皆様におかれましては、公私ともに大変お忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は議事に入りますまでの間、司会を務めさせていただきます、事務局の企画財政課長の小池でございます。どうぞよろしくお願いいたします。会議に先立ちまして、事前に配付しております会議資料と、本日、机の上に置かせていただいております資料のご確認をさせていただきます。

## <資料確認>

- 事務局（企画財政課長）：それでは続きまして、本日欠席のご連絡をいただいております委員をご紹介させていただきます。足立委員様から欠席の連絡をいただいております。それではここからは次第に従いまして、最初に委員長の方から、開会のご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

### （2. 委員長挨拶）

- 委員長：皆さんこんばんは。今月、2回目の開催になります。この間、少し体調を崩されていた委員の方々もいらっしゃるようですけれども、寒くなって参りますのでどなたも体調の方にはくれぐれもお気を付けいただければと思います。この会議に先立ちまして、こども園、保育所の施設見学へ行っていただいた委員の皆様、ありがとうございました。私は残念ながらその施設見学の時間に間に合わなかったのですが、見学に行かれた皆様におかれましては、実際に見て聞いて感じられたことも踏まえながら、本日、ご意見賜りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。早速でございますけれども、議事進行をさせていただきたいと思います。次第の二つ目、前回会議の振り返りということで、まず事務局から説明よろしくお願いいたします。

### （3. 前回会議の振り返り）

- 事務局（主幹）から前回会議の振り返りについて説明
- 委員長：ありがとうございました。冒頭、今月も2回目の開催ということを申し上げましたけれども、そのお陰もあって記憶がまだ新しいという感じがいたします。改めて事務局から前回の議論のポイントを的確にまとめていただいたと思うのですが、皆様の方から今の振り返り内容について、何か補足的にご意見や、あるいは質問等があればおっしゃっていただければと思います。いかがでしょうか。
- 委員：前回、体調不良で休ませていただきどうもすいませんでした。議事録を拝見しておりましたら本当にたくさんの意見が出ていまして、活発に議論されたと思いながら見させてもらいました。その中で質問や意見があるのですが、対象の施設につきまして、議論していくものとそうではないもの、対象となるものと対象外となるものということで、その中でも緊急性があるものにつきましては粛々と進めていく、という議論がなされていたみたいですが、その中でクアハウス岩滝と給食センターが急を要するという話だったと思います。給食センターにつきましては、確かに老朽化もあって早急に手を付けないといけないことだと思っておりますけれども、今、大きな議論の一つである野田川わーくぱる、中央公民館、体育館の中の施設の一つであるという意味では、今後、議論の中に関わってくるかもしれないですし、例えばその場所で新しくしていこうという方向なのか、全く新しいところに建て替えていこうという方向なのか。そうであるならば、どこを考えていらっしゃるのかという情報は、粛々と進んでいただければいいのですが、この会議体の中に情報提供していただけたらありがたいと思います。タイミングもあるでしょうしお任せしますが、そういう兼ね合いがあると思っております。それから役場庁舎につきましては、時間もお金もかけて練っていただいたので、答申を尊重しないとイケないということでしたけれども、この結論が「現在の分庁舎を当面継続し、将

来しかるべき時期に、町の中心地に新総合庁舎を建設する」というところで落ち着いているのですが、これは私の解釈ですけれども、一番当たり障りがなく、とにかくこうしておけば当面このままいくであろうという思いで出されたような気がしてならないです。新庁舎を建てることの大変さというものも、その時の委員さんが重々分かった上で、「そうしなければまとまらないだろう」みたいなことで出たのではないかと私は感じるわけです。それが実際に統合していこうとすると、本当にたくさん問題が山積しているわけです。そうするとあまり現実的ではないのかなという思いがして、しかるべき時期が今じゃないかとかいうこともありましたけれども、議論をしていく必要があると思いました。それから合併の時に新庁舎の引っ張り合いがあったのですが、その時に「役場の庁舎がある所は繁栄する」という考え方がありました。何故かと言うと、役場の職員さんが周辺で、例えば食事をされたり電話をされたりという経済的に潤うのではないかと、例えば視察に来られても庁舎で会議をされて、近辺でお客様方が食事をされたりということで、役場の庁舎というのはどこを見ても繁栄しているのではないかと、合併したらやっぱり本庁舎がある所が絶対いいよね、という考え方があって、だから引っ張り合いをしたということが実はあると思っています。今、15年ほど経って、実際に岩滝の庁舎の周りが繁栄したのかということそうではないわけですし、加悦もそうですし、何も変わっていないのです。ですから、そういう疑惑、懸念というのは、年数が経った中で、そう思って判断したけれどもそんなことはなかったということを経験した住民の皆様も少し理解していただけるタイミングかなと、実は思いました。もう時代も変わって、コロナもですし、ICTの関係についても日進月歩どころか早く進んでいる状況で、いろんなことが変わってきているのでいいタイミングかな、そんなことを思いながら資料を見させてもらっていました。

- 委員長：ありがとうございます。2点目の庁舎のことにつきましては、また後ほど改めて皆さんからご意見を頂戴して議論させていただくとして、1点目についてですけれども、前回、この委員会で大まかではありますが議論の対象にするものと、対象から外すものを整理させていただきました。例に上げていただいた給食センターは対象外ということに一応なっているのですが、私もその点に関連して少しだけ補足させていただきたいと思います。それは、あくまでこの委員会で議論の対象からは外すということであって、実際にそれを建て替えたり、改修したり、場合によっては民間にということも含めて、厳しい財政制約の中でそのようなことをやっけて行かなければいけないということですので、そのまま更新という訳にはいかないと思います。我々は、そこは議論しませんけれども、庁内部、あるいは議会も含めてできるだけ工夫していただくということは言わずもがな、ではないかと思えます。ですから、いろいろな選択肢をご検討いただいた中で、最終的にこのように決定したということ、しっかりと庁内でやっていただくことを前提として、我々の議論の対象から外すという意味であるという認識であること改めて確認させていただきたいと思えます。今日の振り返りの中でもありましたけれども、やはり町財政全体の中で今後、検討していかなければいけないことですので、そこは本当にしっかりお願いしたいと思いますし、先ほど〇〇委員がおっしゃられたように、その後どうなったのかということについては、ぜひ情報提供いただきたいと思います。そうしましたら、先ほどのこの振り返りに関して何かございませんか。〇〇委員もお休みでしたのでいかがでしょうか。
- 委員：今日のテーマでもあります庁舎の今後のあり方についての論議で、地区公民館や地域公民館、

小学校単位といった狭い単位での利便性を高める対応が必要だという議論の中で、全国的には800ほどの自治体がコンビニでいろんな証明が取れるようになっているという発言がありました。確か1,200ぐらいの自治体があったと思うのですが、800というと半数以上となるので、現実にごういったことがもう目の前に近づいているのかと思いました。また、公民館単位でやろうとした場合に、人的な体制、財政的な問題等も含めてどのような課題があるのか。確かに非常に利便性が良くなるし、そのことを期待されると思うのですが、これを実現するための根拠、条件、あとは全国的にそのようなことが既にもうできているところがあるのかどうか、学識経験者の皆さんが全国のいろんな情報をよくご存知なので、そのあたりも今日の議論の中で分かる範囲でご紹介いただければ、論議が深まるといながら議事録を読ませていただきました。

- 委員長：ありがとうございます。最後の点は後ほど〇〇委員にご紹介いただけたらと思っております。他にこの前回、振り返りの内容に関連してございますか。特にならぬようでしたら次に進みたいと思います。

#### (4. 役場庁舎について)

- 委員長：次第の3番目、役場庁舎について、まず事務局からいいですか。
- 事務局（主幹）から役場庁舎に関して、庁舎に関する職員アンケート調査結果を説明
- 委員長：ありがとうございます。前回のこの委員会でのご意見を受けて、間に合わないのではと思っていましたが、非常に頑張ってくださいまして、しかも80%以上の回答率ということで、職員の皆様の関心度が高いということを実に表しています。しかも、自由記述が山のようにあって読むのも大変なぐらいでしたけれども、非常に参考になる意見がたくさん出ていたと思います。キーワードを拾っていただいたので我々も議論しやすいと思いますし、皆さんの方でお気付きになられて何かご意見があれば、ぜひお聞かせいただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。
- 委員：皆さん本当に本音で意見を出されていると思いました。全部読めなかったのですが、ざっと見て思ったことは、やっぱり皆さん一つにしなければいけないという気持ちが強いなど。全てにおいて中途半端だとか、他の庁舎の情報が全く入らず職員が浦島太郎化しているとか、特に職員同士のコミュニケーションが図れないことは大変な問題だと思います。今は電話やメール、パソコンを使って他の庁舎の人とやり取りができていると思っていましたが、読んでいてこんなにもコミュニケーションが取れていないということでびっくりしました。やっぱり職員の方のことを思うと、またデザイン会議に参加した住民も「まず一つにすべきだ」ということがありましたし、職員の意見を聞いてこれは本当に進めるべきと思いました。
- 委員長：ありがとうございます。他の皆さんはいかがでしょう。今のご意見をお伺いして少し思い浮かんだことですが、このコロナ禍に直面して職員間のコミュニケーション、特に新たに職員として入ってこられた方、大学で言えば新生になりますけれども、そういった方々とのコミュニケーションというのが非常に希薄にならざるを得ないといえますか、そういう状況に追い込まれたという場面を思い出しました。庁舎が分かっているというのは、コロナに関係なく物理的に最初から分散しているという状況が、この与謝野町では十数年続いているということになります。コミュニケーシ

ヨン不足の蓄積という影響は、これからいろんなところで出てきてしまうのではないかと懸念します。今、〇〇委員がおっしゃられたように、アンケート調査の結果から、職員さんの思いは統合の方向にかなり強く傾いていると思いますので、そのような観点も汲み取りながら、我々も議論をしていかなければいけないと思います。

●委員：意見というよりも感想になろうかと思えます。前回会議の議事録の中で、〇〇委員が、職員の方々が職場に対する誇りというのか、働きやすい環境だと思っていらっしゃるのかといった思いを尋ねてみたい、ということでこのアンケートになったみたいですが、住民の方々の気持ちをおもなばかった意見もありましたし、やはり働く側の立場からいくと一つの方がいいだろうと思います。中には家から近いからとか、このままがいいという意見もありましたけれども、総合的に考えると、一つの方が効率もいいですし、仕事もやりやすくコミュニケーションを図りやすいということに集約されるのかという思いが一つ。もう一つは、トイレがそんなに環境が悪いのかと。私がたまにお借りするところはそうでもないですが、そのように感じていらっしゃる方が多いのだなと思いました。以前は、たくさんの方が座られると気持ちが悪いから和式がいい、という時代があったような気がします。役場庁舎も多分、和式が多いと思います。ところが今の時代になってきますと、ウォシュレットがあって、座っても除菌できたり、シートでカバーができるということもあって、そういう意味からすると、役場も少し時代遅れになっているという感じを受けました。

●委員長：ありがとうございます。その他いかがでしょう。

●委員：この意見をテキストマイニングで分析していました。そうしたら岩滝と野田川と加悦と全然キーワードの特徴が違います。面白かったのは、岩滝の1位はトイレという言葉が一番多いのです。2位が庁舎、3位がスペース、4位が洋式、これトイレの話です。5位はエアコン。岩滝に関してはトイレが二つとエアコンということで、環境そのものが最も出ているキーワードです。これ加悦になりますと、1位が庁舎、2位がスペース、3位が職員、4位が駐車場、5位が環境となっており、トイレが出てこないわけです。最後の野田川は、1位が庁舎、2位が駐車場、3位が職員とスペース、5位が何か分かりませんが「庁」。いずれにしても、三つのところで善し悪しがバラバラで当然ですけれども、職員の皆さんたちから出てくる本音のキーワードが、やはりものすごく執務しづらい状況ということが分かってきたと思います。だからといって住民サービスより先に庁舎を立派にすればいい、こんな議論はもちろん成り立たないわけで、でも庁舎が誰のものかという議論を前回も申し上げたのは、市民の方も使うわけでありまして、市民の方にとってもこれが誇りであったり、自分たちの居場所として認識できる場所にしていくことによって、役場の皆さんたちも住民の皆さんにとっても過ごしやすい誇りに思える庁舎にということです。さはさりながら、前回、委員長からあったように打ち出の小槌の様にお金があるわけではありませんので、少なくともこの中で言いますと、おそらく加悦の環境が今の中ではベターと分かってきますので、元気館のあり方も含めて、どのような使い方や総合庁舎を作っていくのかについて議論を進めていく、一つのエビデンスが得られたと思いました。

●委員長：ありがとうございます。今、〇〇委員の方からテキストマイニングしていただいて、庁舎ごとの特徴について整理いただきました。特に〇〇委員が言及されたトイレ問題というのは若い人は特

に、と思いますが結構重要です。やはり気持ちよく働くために不可欠なものでありますので、そこが欠如しているというのは、決定的に問題ではないかなとは思いますが。そういったことは施設の老朽化とともに特に出てくる問題だと思いますし、特に今、若い人と言いましたけれども、お年寄りになりますと、和式のトイレはなかなか体力的に厳しいということもあります。他の皆さんからいかがでしょうか。

- 委員：〇〇委員が、各庁舎のキーワードを上手く分析をしてくださいましたけれども、基本的には大きく三つぐらいの分野でそれぞれ検討していく。一つは、職員の働く場としての役場の機能、あるいは環境という点での分析。これは完全に必要だと思います。これは分散していても、あるいは統合されても同じようなことだと思いますけれども、とにかく職員の働き場としての環境というのが一つ重要な部分です。それからもう一つは、決裁、相談、他部署との連携という役所がいろいろサービスするために職員同士のコミュニケーション、職員が連携を取るためのシステムです。今は、かなりオンラインでできる仕組みができてきています。私が今、名古屋にいる事務所も、決裁やお金のいろいろなやり取り等が、ほとんどオンラインでできるようにシステム化できています。ただし、それだけで職員間の連携のすべてを図れるかというと、そういう訳にはなかなかいかない部分があります。例えば、企業さんも同じようなことを考えていて、オンラインシステムを入れれば自動的に決裁に回って行って、最後の人が決裁でおしまいとすればそれは簡単にできそうに思いますけれども、決裁と決裁の間に隠されたニュアンスみたいなものがなかなか伝わらない。そういうところに会議とか打ち合わせというのが必要になってくるわけです。その打ち合わせのシステムをオンラインに組み込ませてやっているとところもある。どうやってやるかということ、オンライン会議をやる前に必ず10分間の雑談の時間を設けるとか、30分、30分で時間を区切るという形など、オンラインのやり方を決めていく。システムが整ったからもう対面はいらないということではなくて、やはり対面がすごく重要なので、対面ばかりに時間が掛かってなかなか前に進まないということでは困りますけれども、対面はある意味、確認をして、あるいは先輩がしっかり指導する場といった位置付けをしていくという、これが2番目です。3番目が一番重要ですがけれども、住民の皆さんに対するサービス。この住民の皆さんに対するサービスもオンラインで簡単にできてしまう部分と、対面でいろいろ聞き取らないとできない部分があるので、その当たりの機能をどう保っていくのかを整理をしていく。住民の皆さんが来て、何らかの相談をしなければいけないという時に、今、三つ役所がありますので、例えば別の庁舎に本課があるという場合でも、テレビ会議で相談ができるといった仕組み簡単にできる話です。それから住民の皆さんが自分でオンラインで、例えばマイナンバーカードを読み取りしてもらえばすぐに住民票を取り出せるとか。このような仕組みがきちんとできていれば役所の手間を関わらせないサービスも可能になるわけです。だから住民に対するサービスが一番重要ですがけれども、そこも完全オンラインでできること、オンラインと対面のハイブリッドでやらないとできないもの、対面でしかできないもの。そのような形でサービスを徹底していくと考えて、例えば役場の皆さんから出された意見を整理していくと、かなりマトリックスの中に整理できると思います。そのマトリックスをどうやって解決していくかということを考えれば、役場の姿、あるいは備えるべきシステムが見えてくると思います。いずれにしても、そういうシステムとコミュニケーションがうまくかみ合うような仕組みを作ってい

かないといけない。役場の人たちも「システムだけでできるのであれば自分たち不要」という話になってしまいます。今日も午前中に、私の事務所で議論があって、うちはシステムで決裁もできるし、スケジュール管理もできるし、予算管理もできるし、いろいろなものをそのシステムに入れていますが、仕事の割り振りや来週やらなければいけない仕事の整理等をシステム上でポンとやるだけでは、人間的なコミュニケーションがないとうまくいかない部分があります。それは例えば金曜日の午後ぐらいに、今週やってきてまだ課題が残っていることで、来週やらなければいけないことを、1時間でもいいので打ち合わせをして、1時間打ち合わせしたらそのことをまたシステムの中に書き込んでシステムをより良い完全なものにしていこうと。だから対人間とシステムを何か一体化させるような仕組みを作る。職員同士のコミュニケーションを含めた、そういったコミュニケーションの仕組みというのは、中の稟議システム、あるいは打ち合わせシステム、課ごとの何かそういったものを作っていくというもので、そういったことで整理できる部分があると思います。これら3つのことを整理しながら新庁舎の方向性を考えていく、というのがいいのではないかと思います。

- 委員長：ありがとうございます。その他いかがでしょうか。
- 委員：職員さんのアンケートに目を通していただいた時に思ったことが、良いところも悪いところも、「住民の方にとれば」というワードがすごく出ていたような印象を受けました。良いところは住民の人から見ると庁舎が別れていた方が利便性が良い、悪いところは住民の人があっちやこっちに行ってもらわなければならない、そんなことをすごく感じました。やはり職員の中で賛成が97%であっても、住民にとってはどうかということはずごく気になりまして、こういうアンケートが取れるのかどうか分かりませんが、そういうことを住民の皆さんに聞くのも一つなのではと感じました。
- 委員長：ありがとうございます。前回会議から短期間でしたけれども、職員の皆さんには比較的アンケートを答えていただきやすいということで、まずはお願いしたところですけども、もちろん結構大きなことですので、最終的には何らかの形で住民の意見を聞かないといけないとは思いますが、ただ、その大前提としては、前回も確認させていただいたと思いますが、この件についてもう既に議論を重ねてきた経緯がありますし、方向性についても方針として示されているという中で聞くことになると思います。これをゼロベースで住民に聞いてしまうと、また一からということになってしまいます。ただし、庁舎のあり方そのものについては、やはりそれを利用される住民の意見を聞くべきだと思います。その点は今後どういう形で、どういうタイミングでということとは分かりませんが、検討しなければいけないことだと思います。
- 委員：アンケートの結果は3庁舎それぞれ違いますけれども、ご不満があるということ。外側から見ただけでは分からない中で、やっぱりお仕事されているからこそ感じていらっしゃることで、しかもこれは毎日のことですし、ものによっては1日何回もということを感じていらっしゃるのことが分かりました。既に多くの委員の皆さんもおっしゃったとおり、住民の皆さんのことをとても考えておられる、つまりそれは携わっておられる業務にも関係することです。それから業務の効率化、ご自身が携わられる業務ももちろんですけども、それに関わる住民の皆さんにもそういった意味で一部ご不便をおかけしているということ強く感じていらっしゃるということだと思います。近くで対応できるもの、役場でなくてもいいものはどんどん進んでいくということですから、今後、住民の皆さん

には、この部分がこのように利便性が高まります、ご心配していただいている部分についても一定カバーをしていくという考えがあるということを示していくことが、住民の皆さんへの不安を解消することになると思います。それともう1点、対面の部分を残していくことが必要という話が出ましたけれども、それは職員さんの中でも感じていらっしゃるんですね。分散型になっている課についてはコミュニケーションが取りにくいというお話が、このアンケートの中にもだいぶ出ていますし、課の少ない庁舎の方にいたっては疎外感とまでは言いませんけれども、コミュニケーションが取りにくいということが特徴的に出ていたと思います。中には自分は分庁舎にしてもというようなご意見も載っていましたが、やはり業務の効率化ということに関しましては、全体的に言えば総合庁舎の方がお仕事がしやすい。それは住民の皆さんにもサービスの提供という意味で反映できるのではないかと思います。ただ、それには少しシステムの方を変えていかなければいけない、それは丁寧にやっていかなければいけないだろうというところは、デザイン会議にも示された地区公民館のあり方などにも示してあるとおりですので、そういったところをまず住民の皆さんにはご理解いただくといった方向かと思います。先ほど住民の皆さんのご意見はどうだろうといったご意見が出ましたが、まずそういうことをきちんと整えた上でお示しをしていくべきではないかと考えます。それと災害に関しましては、代替の施設は役場でなくてもいい、何も3庁舎をそのまま置いておく必要はなく、災害対応拠点としては中心になるものが一つあった方が便利で、そこがもしダメージを受けた場合でも、代替の施設をきちんと設定しておくことでカバーできるのではないかと、というご意見もありましたので、先に問題になっていた防災の点とか、住民の皆さんの環境とかに関しまして、不便な点というのはきちんとお示しし、説明していくということが大事であると思います。

●委員長：ありがとうございます。

●副委員長：前回からしっかりと意見を言わせてもらっている部分があるので、必要ないかと思いましたが、皆さんのお話を聞きながらどのような方向があるかなと考えていました。本当にお金がなければできないのかなと思うのと、やっぱりここで職員も含めて知恵を絞るということをしつかりとやって欲しいという気持ちがあります。今日の話の中でも、何かネガティブになるのです。お金がない、できない、どうしようか、そのためにどのような知恵を絞ろうかと。そうではなくてポジティブに考えて、町民の方と一緒に新しい庁舎のあり方をみんなで考えよう、職員さんだけの庁舎ではなくて、みんなのまちづくりの拠点になるような庁舎を考えよう、と。僕は財政のことは分からないので何年先になるかわからないけれども、一つのことに町民がまとまって、職員と一緒に新しい庁舎ができたらいいなと強く思っています。そういう方向にできたらいいなというのが僕の一番の今の願いです。難しいことは分からないですけども、みんなで作るんだという気持ちになりたいな、なっていたきたいな、と思います。

●委員長：ありがとうございます。最後は、今、副委員長がおっしゃられたことが大事だと思います。本庁舎は誰のものかということがありましたけれども、これはやはり町のみんなのものです。ということは、みんなで知恵を絞ってどのような庁舎にしていくのかということ、町を挙げて議論していく、そのような機運を高めていくことがまず大事だろうと思います。特に今回、職員さんからアンケートをとらせていただきましたし、ある種、アンケートをされたことによって期待感も高まっている



と思います。やはり職員さんもアンケートを取られて何のフィードバックもないということになると、またモチベーションが下がってしまうと思いますので、これを機に、庁舎のあり方について、町の職員の皆さんも住民の皆さんと一緒に継続的に知恵を絞っていきましょうというメッセージを、この委員会としても出していくべきではないでしょうか。あとは、庁舎統合するといった場合にも、いくつかの大きな要件みたいなことは、この委員会としての意見として出していいと思います。我々は最終的に意思決定する立場にありませんが、統合していくということであれば、こういった要件を満たす必要があるのではないか、ということ意見を意見として出すべきではないかと思います。現時点で今日お伺いした限りでいくつか言えることがあろうかと思いますが、一つ目は、何と言っても職員さんはもちろん、住民さんにとってもそうだと思いますけれども、庁舎の基盤になるもの、その環境をしっかりと確保するという事です。トイレの話ばかり、空調の話もそうですし、我慢することが美德みたいなことでは駄目だと思いますので、贅沢するという意味ではなく、誰にとっても快適な環境を、しっかりと確保するという事は当たり前のことではないかと思ひますし、それを整えないということは労働生産性を著しく下げてしまいます。そういうことをしっかりと当たり前のように整えるということが一つです。それからその基盤が整った上ですが、2つ目は、本来、庁舎が持つべき機能を統合したあともしっかりと確保し、できれば向上させることも視野に入れて考えなければいけないということです。その時に大事だと思ひましたのは、ICT、DXということがワードとしても出ていますけれども、やはりオンラインというものを有効に活用するとともに、オフラインとうまく組み合わせるということです。これは行政に限らずですけども、ありとあらゆる場面で今オンラインというものが積極的に活用されるようになり、また定着しつつあります。これでこと足りるわけではないという〇〇委員の意見は全くその通りだと思いますので、そういう意味ではうまくオンラインの仕組みとオフラインの仕組みを組み合わせ、今まで分かれていたことによって欠如していたコミュニケーションを一度、再結合させるという視点が、庁舎統合のプロセスの中で非常に大きなキーになってくると思います。物理的に繋げるというだけではなくて、心理的にも繋げていくことが一番大事なことではないか。庁舎の議論につきましては、もう少し継続的に議論していかなければいけないかと思ひますけれども、さしあたって今日、皆さんからご意見いただいたものを踏まえすと、このような視点が重要と思ひます。

- 委員：先ほど委員長の方から IT の活用について言及がありました。最近、一番驚きましたのは、長野県伊那市という町が、空飛ぶドローンで買い物ができる環境を整えたことです。ドローンもまだ途上にありますので、例えば家の上を飛ばしたときに落ちてきたらどうするのかということもあって、やはりなかなか住民の方の信頼を得られない。そこで伊那市では川の上にドローンを飛ばしています。お客さんである住民の皆さんたちはケーブルテレビで注文をして、そして注文を受けたら、買物隊がスーパーで買い物してくれて、道の駅からドローンを飛ばします。川を外れてしまうため家までは飛ばしません。最後の何百メートルからは人が運びます。そこがまたポイントで、要は全部デジタルの力でやるのではなくて、最後は「おばちゃん注文したものが届きましたよ」というその一言で会話が生まれることです。その会話が大事です。デジタルの力を使いながら最後はコミュニケーションをしっかりとっていく、そこで住民の方と会話が生まれる。これ市が直営でやっています。一つのところ

に総合庁舎化したとしてもどこかに窓口があって、そこまで例えば公文書の決裁をドローンで運ぶ。与謝野町には野田川と岩屋川という川があって、地図を見ると結構、町をカバーできそうなところを流れています。今ドローンで運べるのは重さ 30 キロまでです。距離は 12 キロまでいけます。日本では長野県伊那市だけですけれども、今後はますます広がると思います。庁舎間の移動、住民さんの買物とか、あとはオンライン診療の薬を届けてもらうとか。診療は Web でできるけれども最後、薬を取りにいかなくてはなりませんから、それをちゃんと近くまで届けてくれるとか。こういったドローンを活用した ICT、DX を、役所だけではなくて、住民の方々が便利になったと思えるようなことに活用することによって、結果として役所に行かなくても済みますよということも含めて、この議論に反映していければと思います、情報提供させていただきます。

- 委員長：ありがとうございます。貴重な情報を提供いただきました。先ほど住民の皆さんに情報共有することの重要性についてご意見いただきましたが、その時に「今、実はこういうこともできるようになっているんです」ということも合わせて情報共有してあげると、今までこの範囲でしか議論できなかったことが、もっと広がっていくことになろうかと思しますので、ぜひそのようなことが今後できたらと思いました。
- 委員：庁舎の話題からもう外れそうなので、思ったことを言っておきます。先ほど来から出ています不安材料のことです。アンケートまで取らなくても、住民さんがどのような不安を持っていらっしゃるのか集約するようなものがあるって、例えば、庁舎がなくなったら不便になるのではないかとか、アンケートでも出ていました「たらいまわし」云々ということについては、こういうことで解決できますよ、別のこのようなことについてはこういうことで解決できますよという、とにかく町民さんがお考えの不安材料を集めておいて、それぞれの解決策を提示することで住民さんの不安が解消されるのではないかと思います。それと、この前いただいたカルテには書いてないですけども、例えば、時期は忘れましたが、加悦庁舎横の川が雨で氾濫しましたよね。安心安全、防災の拠点という意味では、加悦庁舎はちょっと不適合ではないかということがありました。現在は堤防改修されてはいますけれども、時間いくらの雨が降ればまだ危ないということも聞いたことがあるので、そのような資料があれば整理をしていただきたいです。加悦庁舎に拠点を置いたとしてどこに問題があるのか、防災についてこのような不安材料があります、キャパシティが何人だから今ところ入れません等です。逆に岩滝庁舎の場合は海が近く、潮が高くなると水害の恐れもあります。どのような条件の時に今までの経験からいえば水位がどの程度上がってきて、その時に岩滝庁舎がどういう状況になるから危ないですよとか。そのような不安材料があるはずですよ。そういったことを踏まえた上でどうするかを考えなくてはいけないことだと思います。今までからそういう話がたくさん出てきたと思いますし、職員の皆様はご存知かと思いましたが、もしできたら整理していただいたらありがたいです。
- 委員長：ありがとうございました。今の〇〇委員の話は、仮にその庁舎へ統合するという時に、住民さんが恐らく抱えるであろう不安材料を、あらかじめできるだけ取り除いてあげることが大事ではないかということですね。この議論をしている中で情報共有の話もありましたし、もちろん住民にもご意見をお伺いする場面が必要になってくるだろうという話もさせていただきましたけれども、お話をお伺いして思いましたのは、例えば、いわゆる FAQ ということで、よくある質問に対しても

あらかじめ答えておいてあげるということも一案ではないかと。それでもなお漏れる不安というものもあるかと思うので、それは今おっしゃっていただいたような形でご意見を聞く機会を設けるけれども、あらかじめほぼ共通して皆さんが不安視されるようなことについては、事前に解決策とおっしゃいましたけれども、こういう意味でその不安は解消されますといったことをお示しする形でも情報を提供・共有することも一つの工夫の仕方だと思いました。庁舎統合の議論が出てから十数年以上経っているという中でありますので、過去にいろいろな経緯があったかと思いますが、統合する場合に、過去にもいろいろ不安視されていたものが、実はこういう形で解消される可能性が非常に高まっていること、特に ICT とか DX の話は、おそらく十数年前には全くと言っていいほど議論されなかったことですので、そういうオンライン機能と先ほど申し上げたオフラインを組み合わせることで、実は解消できる可能性があるといったことをお示しできるような、そういう住民さんへの情報の提供の仕方というのは、今後重要になってくるかと思います。

#### (5. 保育所・こども園について)

- 委員長：それでは庁舎につきましては、一旦区切らせていただきまして、もう一つ大きな論点として、本日、用意されている保育所、こども園の話に移らせていただきたいと思います。こちらの方もまず事務局からご説明をお願いします。
- 事務局（主幹）から保育所・こども園に関して、過去の経過、答申等について説明
- 委員長：ありがとうございました。本日、最後の議題でございますけれども、野田川の保育所、こども園についてご説明いただいた内容につきまして、皆様方からご質問ご意見をお伺いしたいと思います。冒頭申し上げましたけれども、施設見学を事前にしていただいておりますので、その点も踏まえて、皆さんの方からご意見賜りたいと思います。いかがでしょうか。
- 委員：今日、施設見学をさせていただきました。のだがわこども園と石川保育所、山田保育所を見せていただきましたが、のだがわこども園はかなり老朽化しており、ひび割れがたくさん入っているし、石川や山田の子がみんなここに来るのは無理なことだと思いました。それから石川も山田も同じ年代に建設されたようで、一部改修されて綺麗になっているところもありますけれども、かなり老朽化しており、今の保育所にみんなが集まるのは無理で、やはり建て替えしなくてはならないと思いました。けれども、小学校の合併と切り離せないのではないと個人的に思っています。市場小学校のキャパに合うような生徒数になった時にそこへ移るという考えがありますけれども、もう少し早い時期に市場小学校に統合するのが先じゃないかと思います。新しい建物を建てるのか、既存の建物を長寿命化するかについては、財政的なこともあるので何とも言えませんけれども、建物を作るために時間を使うのであれば、合併した後、空いた他の小学校が利用できないかというのが私の意見です。立地条件、こども園の環境ということもありました。環境の方から申しますと、PR するわけじゃないですけども、例えば山田小学校の所であれば電車が見える、後ろに自転車道がある。つまり何が言いたいかというと、保育所の子供たちが散歩するには安全な場所がある、子供の好きな電車が常にすぐそこを通っているというロケーションがいいということで、山田はいいのではないかというのが個人的な考えです。そして、交通の問題も大事で、水戸谷には信号があります。かたやこちらには踏切がありま

す。だけれども府道は広い道ですから府道から入りやすいのではないかと思います。直接、府道から入るので、入ったあとロータリーにすれば交通の流れもいいのではないかといろいろと思いました。私の方はそういうところを推薦したいと思っております。

●委員長：ありがとうございます。具体的な提案までいただきました。他の皆さんいかがでしょうか？

●委員：私も今日は行けなかったのですが、のだがわこども園の園舎の今の状況というのはよく存じ上げておまして、やはり今現在でもキャパシティがもういっぱいいっぱいです。本当は足りないぐらいということをお聞きしています。と思うと、やはり小学校の統合もですが、こども園の新設、どこに建てるのかという話になるのですが、そこは急がないといけないと思っています。つばきこども園は、旧桑飼小学校が閉校した後に建て替えられたのですが、やはりいい環境です。駐車場も広く取れていますし、園庭もあってとても子供に良い環境です。小学校の広さがあったからできたと思っているので、意見をおっしゃられたように、小学校の跡地に建てるというのは一つだと思いました。建てるべきと思うのですがどこに建てるのか、本当そこだと思っています。

●委員長：ありがとうございます。

●委員：私も今日、見学に行かせていただきました。旧市場保育所が現在ののだがわこども園になっていますけれども、ここにはまず旧岩屋保育所が入っていますし、三河内幼稚園が閉鎖になって入っています。よって、従来から比べるとここに2園入っている関係もあって、園庭も手狭になっているということを感じましたし、たくさん園児さんがいらっしゃる時間帯ではなかったので実感はないのですが、やはり手狭になってきていることは否めないだろうと思います。ただ、場所ということに関しては、そもそもこれらの問題の発端になっているということもありまして、これについてはその時にいろんなご意見が出ていたはずですが、それが集約されているかどうか分からないのですが、町民の方からもいろんな具体的なご意見も出たかと思うのですが、町の方の案を上回るようなご意見ではなかったためか採用されずに、町の方の提案がずっと通ってきてしまった。しかし、それでは納得のいかない方たちがたくさんいらしたということもあって、現在に至っていると思います。ただ、小学校の問題と絡めてということになりますと、実は市場小学校も、本来は2022年が一応、年数的には対応時期が来ていると思います。子育て会議で一度、通っている案で市場小学校に集約すると言われていますが、本体がもうそろそろという時期を迎えている統合であるならば、長寿命化によってどれぐらいの期間の効果を発揮するのかは分かりませんが、そういったことも踏まえて総合的に見ていく必要があると思います。統合校が市場小学校になっていますけれども、他の小学校についても年数にそれほど差はないでしょうし、保育所は10年ほど新しい対応年数であったと思いますので、それほど大きな開きではないということになります。施設そのものの長寿命化を図る上でも、いろんな費用対効果も考えてあげて、全体を総合的に見ていくということが必要だと思います。

●委員長：ありがとうございます。せっかくなのでこの件については皆さんから一言ずつお願いします。

●委員：私も今日、皆さんと視察に行かせていただきました。感想は〇〇委員や〇〇委員がおっしゃった通り、築40年前後に来ており使える年数のカウントダウンが始まっていますので、ひび割れやトイレの所に水がたまりやすいといったことがあり、建物として安全性の面から課題があると感じました。先ほどの役所の議論と同じで、働いている職員さんや保護者の意見がどうかをスタッフに聞いて

みたら、説明会等で「古いですね」等ネガティブな意見も出ていたとおっしゃっておられました。小学校の話と〇〇委員がご提案された話については、半分賛成ですが半分反対です。理由は一旦、小学校を統廃合してしまうと、二度とその町に小学校は戻ってこないからです。コロナの前であれば統廃合一択でしたけれども、今は選択肢が広がってきています。もっとも、複式学級になりますと部活動ができない、恋愛ができない等、少人数のデメリットは確かに多いです。一方で少人数教育ならではの良さもありまして、今、折衷案として文科省が提案している一つの形として、体が小さい1年生から4年生までは近くの所に通い、5年生、6年生に統合しましょうというものがあります。つまり、5年生、6年生だけ移動する形です。イメージで言いますと、例えば市場小学校に集約するのであれば、市場小学校の周りの子供たちは1年生から6年生が市場小学校に通いますが、山田、三河内、石川の子供たちは、4年生まで今の小学校へ通い、5年生、6年生は市場に来るというイメージです。このことにより何が起きるかということ、石川と三河内と山田の5年生、6年生の部屋が空くため、そこに何を持っていくかということで、例えば公民館、スポーツクラブ、放課後児童クラブ、こども園、老人福祉センター等が入って地域コミュニティの拠点にしたらどうかといったことを文科省自身が提案しています。正確に言いますと「学校を中心とした他の公共機関との複合化、共用化について」というタイトルで、学校施設の複合化、共用化を行うことにより、施設機能の高機能化や多機能化に伴う児童生徒や地域住民の多様な学習環境の拠点の創出、公共施設の有効活用、そして財政負担に繋がるということを説明しています。これから与謝野町でも人口は減っていきませんが、何よりも移住者の方々が来るようになった時に、保育所もありません、小学校もありません、中学校も1校しかありません、となってきましたとその町には移住しないです。小学校はとても大事なのです。最後の最後まで踏んばらなければいけないと思います。現在、小学校の児童をお持ちの親御さんは基本統廃合を進めると思っています。それは自分の子のことを思えば多様性を、という親心からです。だけれども、その後の廃校のことをどう活用するのですかということや、その町の中期的な視点でみると、小学校を無くすことは30年後、50年後にその町から人が消えることを意味します。ですから、簡単に統廃合ありきで議論することは私は反対なのです。もちろん〇〇委員がおっしゃるとおり、全部の小学校は約50年間使っていますからそのままでは無理です。ですから長寿命化の工事は絶対必要です。加えて、〇〇委員からこの前、教えていただいた本に書いてありましたが、小学校の園庭は結局夕方の3時半以降ぐらい使わないです。今日、保育所に預かりの方多かったですが、例えば預かりの園児さんはその小学校で預かればいい。園庭も広いし夕方以降は遊具を誰も使わないです。放課後児童クラブもありますけれども、そんな形の中で小学校そのものの価値をもう一度見直したときに、議論の仕方がコロナ前と後で違ってくると思うのです。統廃合しない形の中でも、例えばICTを使って1人の先生がいい授業を配信すれば、3つの小学校で同じ授業が配信できます。そのようなことも今やり始めています。コロナ前ではこうした提案は多分非現実的だったわけですが、状況は変わりました。例えばものすごく教え方が上手な先生の授業をみんなで勉強できるということも、これはICTのメリットになりますから、そのあたりも含めて議論、選択肢を増やさないとはいけません。4つの小学校を全て一つにするというのは、あまりにも単純すぎる議論と思っています。

●委員長：ありがとうございます。また最近の動きもご紹介いただいて、皆さんの検討の材料にしてい

ただければなと思います。他の皆さんいかがでしょうか。

●副委員長：今のお話を聞いて非常に元気が出てきました。やはりネガティブに考えるのではなくて、このように考えていくことが大事だと、僕はいつも思うのです。今日、こども園と保育所を見せていただいて、これは早急にしていかなくてはいけないことだとすごく感じました。残しておいてもいいのではないかと考えていたのですが、こども園を野田川地域に1園しか持てないという話も聞いて、いろんな法律の部分でクリアできない部分がたくさんあるのかなと思いました。こども園を作ってどこかに行くしかない、そのためには200何十人に合わせてやっていかなくてはならないと思っていました。僕の子供の頃、保育所は4時ぐらいに終わったと思いますが、今は6時ぐらいまで子供さんがおられる。それを迎えに来るお父さんお母さん、この人たちが20年したら、今、保育所通っていた子がここで暮らしていたら、また子供を迎えに来ることになる。そういう人たちが思っていることをしっかり聞いて受け止めて、もっと考えていく必要があると思いました。単純に合併するというのもものすごく大事だし、どのような保育施設を作っていくかということも、そういう人たちを含めてしっかりと議論し、早急に進めて欲しいと思います。今日、たまたまある区長さんと「小学校が無くなるとやっぱり最悪だね。でもそれ仕方ないんだよね」と話していたのですが、また逆戻りして怒られるかもしれないですけども、何としても残していける形ができれば、残していくことも一つの選択肢として議論できないかと。舞鶴と福井県の境のことですけれども、確か水上勉が教師でおられた分校がこの前まであって、そこは「4年生までは小さいから行けないから、それまではその分校でお世話になるんだ」ということを聞いたことがあります。学校の先生と喋っていて、通学することもすごく大事なことで、バスで行くのではなくて、子供たちがそこを歩いて行くことが町の中でもすごく大事なことだと教えられている気がしたので、何とかもう1回戻って考えなければならぬのかな、と先ほどの話を聞きながら思いました。本当に小学校がなくなることが大変なことだということを岩屋を見ていると思うし、であれば何か他の方法をとりました。

●委員長：ありがとうございます。

●委員：前段の役所の統合問題について本当に関心したことは、第3回委員会で出された意見に対して町の職員の皆さんが、このわずかな時間ですぐに具体化してこれを提起されたことです。また、8割超える職員がしっかりと自分の意見を述べられた。ここが与謝野町の職員の本当にすごいところだと思います。このような動きをしてくれることは、我々にしてみればとてもありがたいです。いくら論議していても職員もなかなか関心を持たないというのではなくて、みんなが敏感に対応してくれる。しかも急なアンケートに関わらず、個々の意見がしっかりと書かれているし、住民の立場も考えられている。そういう点では、合併して15年、この庁舎の統合問題はいよいよ本当に機を熟しており、今はここでしっかりと方向性を出さなければいけないことを改めて教えられました。併せてこの野田川の子ども子育て問題は、保護者からすると、現在の保育園の老朽化、子供の数の多さ、加悦も岩滝も整備されたけれども野田川地域はどうなっているんだという声が強く出ていると思います。ただ、確かに本来であればもう新しいものが建つという時期ですけども、それをある意味でチャンスに捉えて、町の上から押し付けるやり方は駄目で、町民の意見を聞いて町民のニーズや実態をしっかりと把握した上でやるべきだ、という第三者委員会の答申にあったように、そのような視点で改めて論議が

必要だと思えます。あらためて見ると、野田川は人口が加悦、岩滝と比べるとずいぶん多いけれども、それを1ヶ所にまとめることが本当にいいのか。先ほど〇〇委員が少人数教育のこと言われましたけれども、全国的には登校できない子供たちが戦後最高の数にあって、これはコロナの影響もあるでしょうけれども、改めて教育や集団の規模等のあり方も問うている数字ではないかとも思います。そういう意味では、確かに野田川の住民の皆さんからすると、どうなっているんだ、早くせよという声が出て当然ですけども、こういった過程を辿っただけに余計にみんなで知恵を出し合って、5年前、10年前では考えもしなかったような形を文部科学省が言っているという大きな時代の変化もありますので、そのような変化をきちんと掴みながら、我々がしっかりと論議する必要性、重要性があることを本当に感じます。

●委員長：ありがとうございます。

●委員：こども園のことに限っては、近くにある、おじいちゃん、おばあちゃんと手を繋いで行ける所が一番理想だと思っていました。だけれども統合問題ということで、もう一つにしなければいけない、それありきみたいな感じが頭にあったものですから、〇〇委員のような意見があると、また元に戻ってしまうのではないかと思いました。確かに学校が無いような町は廃れて行くという話はそう思うけれども、財政的なこともあって、だからこの委員会ができ会議があるわけですし、〇〇委員が言われたように、もっといろいろ考えていくべきだと感じました。

●委員長：ありがとうございます。

●委員：今日、私も施設を見に行ってきました。先ほどから出ていますように、かなり老朽化も進んでいて、ヒビが入っていたり、水が浮いていたり、シミがあったり、早急に何とかしないとイケないし、先生に耐震はどうかとお聞きすると、一応クリアはできているということでしたけれど、でも昔の耐震のレベルであって、果たして今の基準に合わせるとどうなのかなと思ったり、それが一番危ないなと思っています。〇〇委員がおっしゃったように、岩滝と加悦は新しいところで子供たちが綺麗なトイレ、綺麗なホールでみんなが楽しく遊んでいるように、非常に綺麗な環境の整ったところと、今の野田川の子供たちは少し危ない、あまり綺麗ではないところで、それでも子供たちは元気に遊んでいましたけれども、そのような環境で果たしていいのかと思いました。以前にも小学校の関係で言いましたが、教育の機会均等ということ考えたときに、同じ与謝野町民でありながら何故という意見は必ずあるわけで、そういったことを考えると早くしなければいけないと思っておりました。それから市場小学校と統合の話がありましたけれども、あれは今現在もそうなのですが、庁舎のところに新しく建てられている別棟を活用すれば、何とか今の市場小学校の子らも入ることができて、児童が少なくなっているものですから、何とかできるかなという計算の中で、それでも今のままでは駄目だから別棟をもう1棟建てれば何とかなのではないかとか、そこに入るぐらいのキャパの人数になるのは何年かかろうかなとか、といった議論をしたことがありました。そういったことで市場小学校に統合という話も無理くり進めたようなこともあるのです。野田川の小学校を段階的にくっつけて行くのはどうかという単純な話もしましたけれども、昔の野田川の合併の経緯、地域性があって難しいそうです。要は小学校の子供たちの教育環境もあります。町財政の関係で数を減らしていくためには小学校も統合して、維持管理費も要らないようにする方がいいのではという話も議論の中心でありまし

た。ですが、学校の場合は交付税参入のことがあって、さほど経費を使っていないとか、難しい計算があるらしくて、勉強不足であまり理解してないですけども、ただ減らせばそれで減らした分の経費の削減ができるかというところではないそうです。そういったことを考えると〇〇委員おっしゃったように、何とか工夫をしてやっていける方法もあるのかなと思いながら話を聞いておりました。それと、教えていただきたいのですが、現在は学校ごとに校長先生と教頭先生というふうにして、例えば市場小学校に5、6年生が集まって、あとの低学年はそれぞれの小学校を利用した場合、それは一つの学校としてまとめることができるのかどうか。今の宮津高校が宮津と加悦に学舎があるように、学校としては一つであるけれども庁舎は分かれているということであれば、効率化であったり、何かのタイミングの際に町民グラウンドで合同の運動会ができたりするのではということが一点。もう一つは、この場所にこども園を建ててはどうかという話がなくなりましたけれども、ハザードマップの中にこのエリアが入っているのではないかと、防災の関係でご指摘があったように記憶していますけれども、その辺りが今どうなっているも教えていただきたいです。

- 委員：全て把握しているわけではないですけども、今この議論は、私が養父市の教育のあり方検討委員会の委員をやっておりまして、アドバイザーに鈴木寛元文部科学副大臣が入っていらっしゃいます。彼と一緒にディスカッションしている中で、研究開発学校制度が活用できることを知りました。要は特例校にするのです。そうすると、いわゆる教育基本法、学校教育法に始まるいわゆる規定から外れた教育展開ができるわけです。例えば、宮津天橋高校の加悦谷学舎と宮津学舎、校長先生は1人、副校長みたいな人が一応責任者でおられて、事務局長も1人です。これを小学校に応用するイメージで、とにかく研究特例校にしてしまえばいいだけの話です。ですから、例えば市場小学校において1年生から6年生まで全部通い、他の小学校はその地区の1年生から4年生ぐらいまでとする。その空いた教室を地域の方々の拠点にしていきます。その中の一つ大きいスペースをのだがわこども園としてワンフロア子供に使ってもらうということが可能になります。さらに園庭では、小学生とこども園の子たちが一緒に遊ぶということも実現するわけです。ある意味、モンテッソーリ教育のような教え合い、学び合い、そんなコミュニティが新しく生まれてくるわけで、それ自身が教育の特徴となって「このようなところで学ばせたい」となり、移住につながる可能性も出てくると思われます。ですから、今こそピンチをチャンスにする発想が必要です。行政だけで考えると旧町単位で1校、1校、1校と考えがちですけども、それはあまりにも単純すぎます。例えば野田川においては教育の特例のまちにしていこうといった発想で議論しないと、〇〇委員がおっしゃる通りネガティブな議論にかなりなりません。統廃合の先に何があるのですかという話です。じり貧になるだけです。ですから、知恵を絞って文科省と掛け合う、鈴木先生に掛け合ってもらった方がいいのです。そして、文科省の中で認めてもらって、このような特例校にして研究開発学校にしてくださいと交渉して行く。そうやって国を使えば良いと思います。

- 委員長：ありがとうございます。

- 委員：もう時間がありませんので手短かに申し上げます。答申が出ております。一応、答申の方向性は統合するとなっているのですが、文科省は新しい方向性を出してきたということに鑑みて、やはり小学校というのは地域にとっていろんな意味で非常に重要な拠点なので、民間が使うにしろ、地域が使



うにしろ、あるいは他の使い方にしろ、とにかく小学校の建物が何らかの形で使われているということは、地域にとってすごく重要な要素だと思います。そういう意味で今の〇〇委員のご提案も研究してみる価値が十分あると思いますので、加悦と岩滝はもう既に統合されてしまったということがありますけれども、新しいこの地域の生き方としてのモデルを野田川で実現する、という方向性でやれるなら、是非やるというのではないかと思います。

- 委員長：ありがとうございます。今日も皆さんの議論が白熱して、もう既に終了時刻になってしまいました。最後、私の方からも若干コメントさせていただいて、まとめに入りたいと思います。最後に議論いただきました保育所こども園の方向性につきましては、今日、何か明確にお示しするという段階にはないと思いましたが、引き続き次回、議論させていただきたいと思います。庁舎につきましては、先ほど少しまとめさせていただきましたけれども、統合していくという方向性、これについては委員会としてはほぼ見解の一致が見られたのではないかと思います。また、職員の皆様のご意見をお伺いする限り、その方向性が大勢であるということも一定確認できたと思います。ただ、庁舎の統合と学校の統合ではずいぶんと意味合いが違うということ、先ほどの議論で確認させていただきました。ターゲットは、のだがわこども園の話になっていましたけれども、学校のあり方、学校施設のあり方と一体的に議論しなければならないということが少し確認できたところですので、次回、こども園だけではなく学校のこともあわせて議論をできればと思います。少しだけ学校の話に関わってコメントさせていただきますと、やはり公共施設の中でも学校というのはずいぶん意味合いが違う。これは特別扱いするという意味ではなくて、その地域の未来を左右する公共施設であるという意味でずいぶんと意味合いが異なるもの、ということをしかりと認識した上で議論しなければいけないということかと思えます。新しい動きを〇〇委員からもご紹介いただきまして、「それいいじゃないか」と思った人が大勢いるかもしれませんが、ただそこは少し冷静に議論をしなければいけません。少人数教育の良さは間違いなくありますし、そのような新しい取り組みに乗っかるということも選択肢の一つとして検討していくことに大いに価値があると思います。ただ、その少人数教育という時にレベルの問題があります。あまりにも少なすぎると、やはり集団での学びというところの最低限のラインを超えてしまうということになってしまいますので、そのことはしかりと認識した上で議論をしていかなければいけない。それから今日ご意見をいただいておりますけれども、学校あるいはこども園に通わせる保護者の皆さんの声をしかりと聞かなければいけない。先ほど副委員長の方から「自分の子供の頃は」というお話もいただきましたけれども、保護者の皆さんの働き方もその当時とはずいぶんと変わってきています。だからこそ保育園、幼稚園が終わる時間がずいぶんと後ろに今はなっており、そこに対応するような方向性を見出していかなければいけない。このようなことが今日、論点として浮かび上がったように思いますので、次回そういった点も重ねて議論できればと思います。今日のところは特にまとめずに、次回に引き継ぎたいと思います。それでは副委員長からご挨拶いただいでよろしいでしょうか。

- 副委員長：ネガティブになってはいけないといつも思っていますけれども、〇〇委員の話や委員長の話聞きながら、何か希望のような気持ちが少し湧いてきました。この委員会が始まった際に、何故この町に住んでいない大学の先生が、俺らの町のことを言うのかと思いました。でも、我々だけで議論

していてもやはり見えてこない。我々も本当に本音でぶつけていく必要があるということをつくづく考えています。もう一つは、この役をいただいて重たい気持ちに凄くなっているのですけれども、先生たちと一緒に少しでも前を向いて行けるようにしたいと思います。子育てのまちといって人口が増えることが、結構話題になっていて、重要なポイントだと僕は考えていますし、若い人たちの意見をしっかり聞きながら、意見を反映できるような会議をしていきたいと思っていますので、今後ともよろしくをお願いします。今日はどうもありがとうございました。

#### (6. 閉会挨拶)

- 事務局（企画財政課長）：事務局の方から事務連絡だけです。今後の日程ということで、第5回、6回、7回と準備させていただいています。年の瀬迫る慌ただしい時期ですが、前回の会議でも日程を確認いただいておりますので、12月22日の木曜日、午後7時からご予定いただきますようお願いいたします。本日、野田川地域のこども園等を見学していただいたように、次回、どこかの施設を見学することになりましたら、会議場所もそれに合わせたいと思っていましたので、現時点で未定にしております。委員長と相談させていただきますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。本日はご苦勞様でございました。

以上